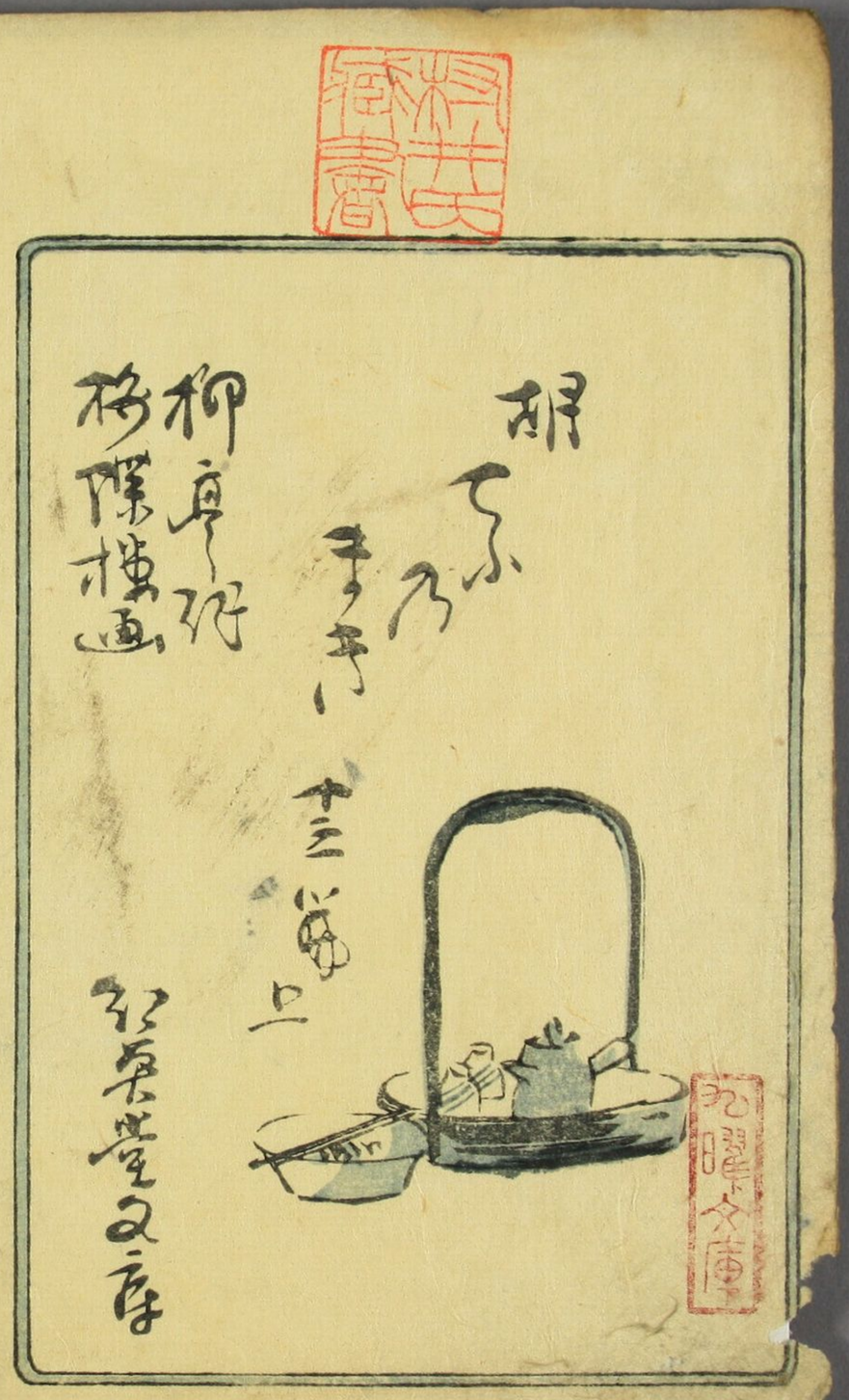
小野
花
十三篇下

源氏
十三篇上

源氏
十三ノ巻上



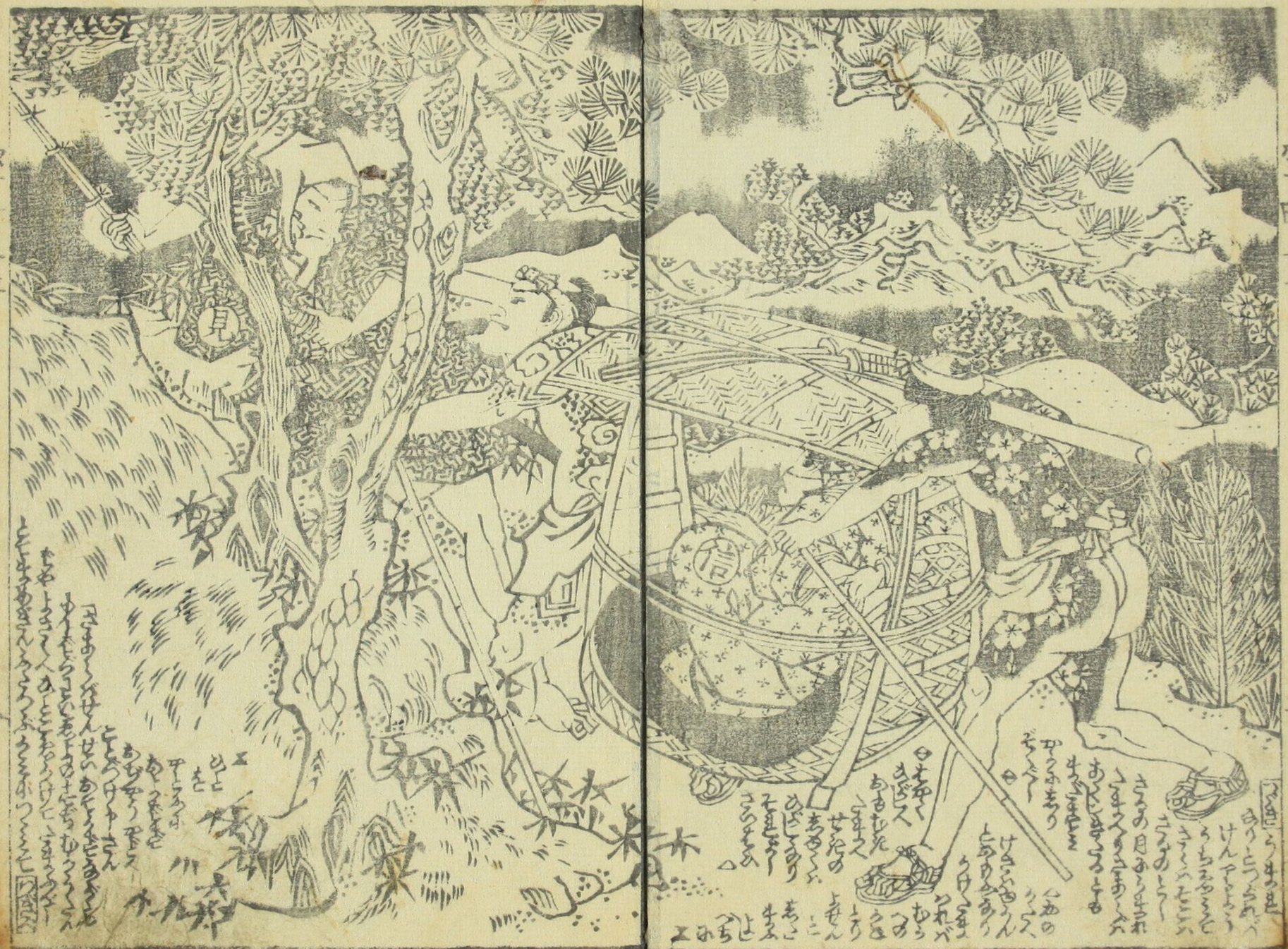
夜並を休む餘寒の脚炉ふ茶受の焼餅狐色ふ焦う一枚ゝ
未足らぬ二つゝそれ此二飽う傍ゝある室町の草稿ゝれば此草紙
善惡二足の狐あり黒龍と呼妖狗あり加之筑前の續風土記ふ
載ゝる奇談志ゝ郡芥屋村の久右衛門が養狗の狸と自在ふ扱ひし
事ふ據ゝの支話狗と小女の名とまれど狸ふ猶畜生まれば
ちと獸ゞ多過てこそゝ人ゝもうちまかゝん書改さんと机を
顧ゝ離まゝゝる温ふ布團の下ゝ矢倉の四脚猫ゝ隅ふ
眠ゝゝ

慶應四年新刊卯二月上旬脱藁　柳亭種彦

○花園胡蝶

○塵塚蜻蛉

御定番
拓拉村や
難波講
月参講
神楽講



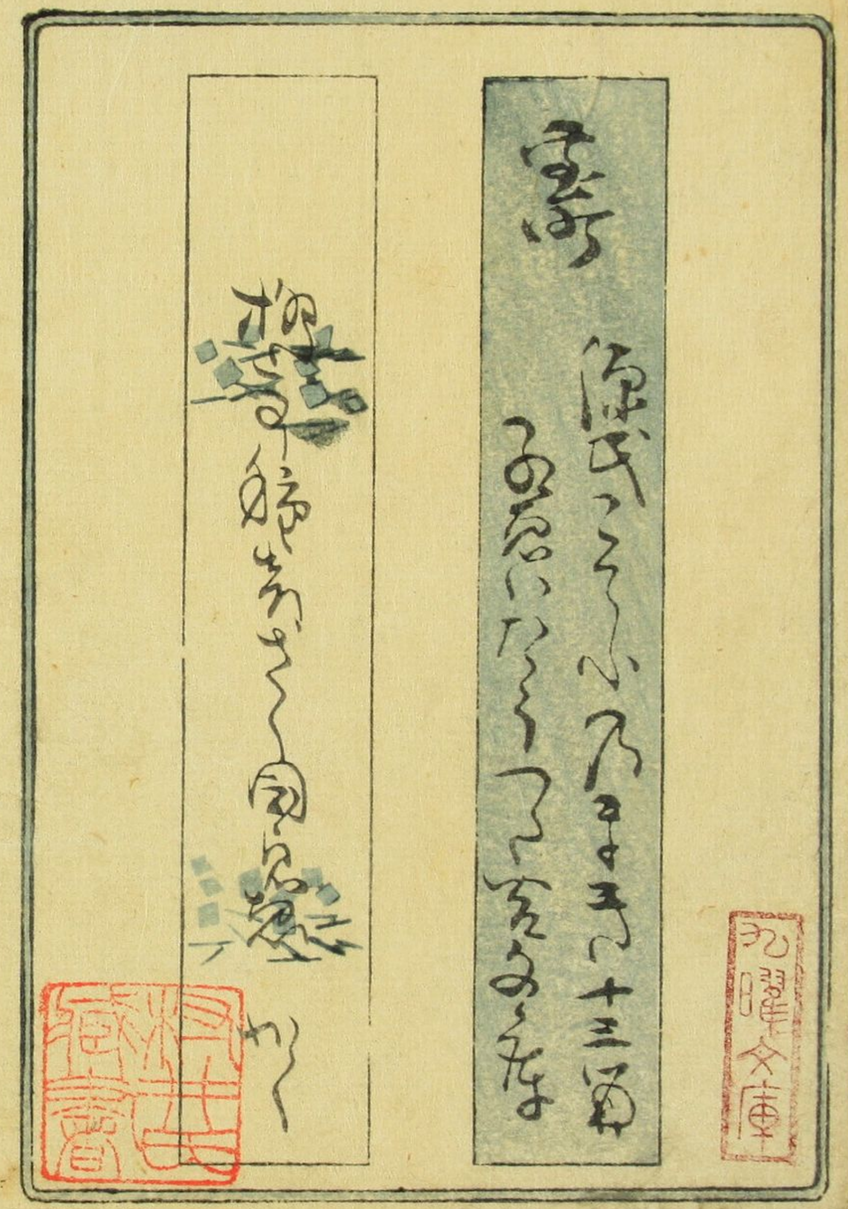
實母散
中橋南傳馬町一丁目東ゝ
葉堂孝輔製

鼠祠通夜譚 四編 八編 出板仕ゝ
柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

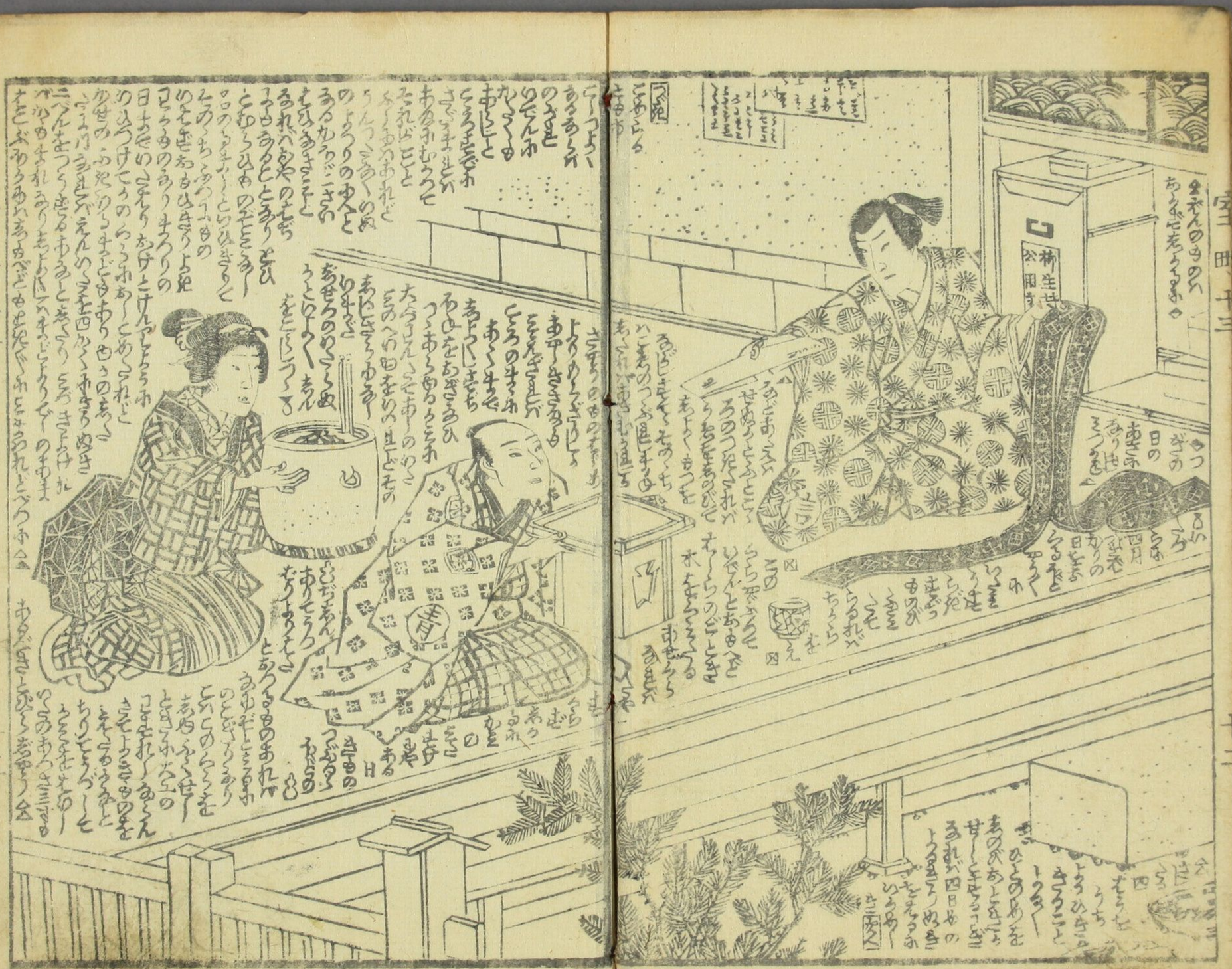
厚化粧萬年嶋田 初篇より追々出板
春水作
梅蝶樓國貞画

這ハ世ゝ普く沙汰せるゝ姐己阿百ゞ傳ゝて是ゝ和尚奥の院
貴縁芦田の家ゝ仇做んとも麦ゝ忠臣孝女ありて源ゝ妻手ゝ苦ゝ
あとゝ成る長恵ゝて花ゝ咲る宜く理の法ゝ草双紙ゝゝ

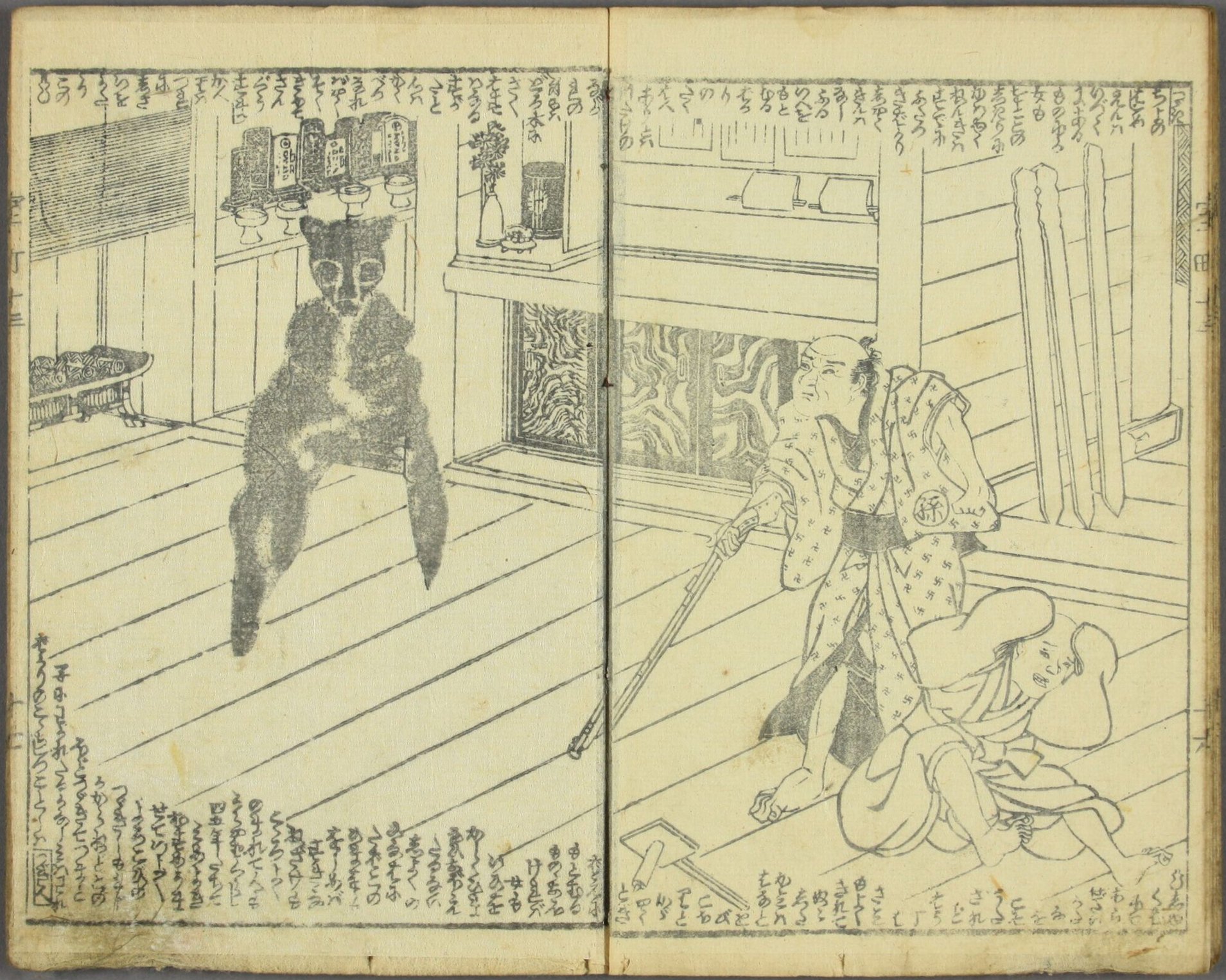
小蝶
花
種彦作
國貞画
十三ノ巻下



山城大和国境


柳生世公用方

肥



柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

版元
紅英堂欽白

慶應四年戊辰陽春開板標目

新局九尾傳 七編より 爲永春水作 一編まで 梅蝶樓國貞画

室町源氏胡蝶卷 十二編 十三編 十四編 十九編 種彦作 國貞画

假名情談憂晴倉 四編 如泉作 大尾 國貞画

明鴉里雪迺福福 十三編 十四編 十五編 種彦作 國貞画

玉藻前 廿二編 廿三編 廿四編 種彦作 國貞画

花封じ合巾玉章 十編 種彦作 大尾 國貞画

薄倖幻日記 十七編 十八編 春水作 國貞画

八犬傳犬の双紙 甲集 五十編 五十一編 柳亭編 國貞画

七姫ゝ菅飾譚 九編 十一編 種彦作 國貞画

南傳馬町壹丁目 萬屋吉藏板